

## 船舶事故調査報告書

令和3年1月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年5月2日 15時00分ごろ
発生場所	愛知県名古屋港 <sup>きばかなおか</sup> 木場金岡ふ頭北方沖 名古屋港高潮防波堤中央堤西灯台から真方位028°4.3海里付近 (概位 北緯35°04.4′ 東経136°50.6′)
事故の概要	水上オートバイ <sup>みあいごう</sup> 美愛号は、航行中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年5月20日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	水上オートバイ 美愛号、0.1トン
船舶番号、船舶所有者等	240-63763愛知、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	船底外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南南東、風力 4、視界 良好 海象：波高 約0.2m、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、船長が、干出浜の存在を知っていたものの、干出浜の全体が露出していなかったもので、十分な距離を離さずに干出浜に接近して遊走していたところ、浅所に乗り揚げた。 本船は、水深約20cmの浅所に乗り揚げて身動きがとれなかったもので、船長が海上保安庁に本事故の発生を通報し、来援した巡視艇に救助された。
分析	本船は、船長が、干出浜の存在を知っていたものの、干出浜の全体が露出しておらず、航行しても問題ないと思い、干出浜に接近して航行したことから、浅所に乗り揚げたものと推定される。
原因	本事故は、本船が、船長が、干出浜の存在を知っていたものの、干出浜の全体が露出しておらず、航行しても問題ないと思い、干出浜に接近して航行したため、浅所に乗り揚げたものと推定される。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・日頃から干出浜の範囲を確認し、潮汐により露出していない場合であっても、干出浜から十分離して航行すること。